

総説

当院の看護研究への取り組みの現状と課題

高橋香
 国立病院機構仙台医療センター 看護部

キーワード：看護の質向上、人材育成
 (2021 年 8 月 30 日受稿、2021 年 8 月 30 日受理、連絡先：高橋香・仙台医療センター 看護部)

I はじめに

臨床で働く看護師が研究に取り組むことは、科学的な看護実践活動を促進し、看護の質向上につながる。そして看護師自身が自分の実践した看護を振り返り、看護実践者としての成長していく機会となる。そして、看護師が日常の看護実践場面で抱く疑問や問題、課題をそのままにせず、科学的に探究する姿勢の育成となり、看護師のキャリア構築のうえでも大切な取り組みと考えている。

当院の看護研究の課題について述べると、看護師の多くは「時間的余裕がない」「適切な指導者がいない」「どのような手順で行えば良いかわからない」という理由で看護研究を難しいものにとらえている傾向にある。

II 当院の看護研究への取り組みの現状

看護部長の諮問委員会として看護研究委員会を設置して、各部署の看護研究への取り組みを支援している。年 1 回は、看護研究のまとめとして、院内の研究発表会、学会等での発表で公表の機会としている(表 1)。

各部署では、毎年 1 題は看護研究に取り組み、その中でもテーマ性に優れ、結果が導き出せている演

題については、院外の学会等での発表へと繋げている。その他に専門分野、領域の学会への演題登録を働きかけている。

しかし、年々、学会等へ演題登録数が減少してきている。平成 30 年度から令和元年度は新病院への移転に向けての準備で各部署の業務量が増加したことが原因と考えられる。また令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で多くの学会が中止、縮小したことも演題登録の減少につながっている。

当院の看護職員の約 2 割は大学卒業者であり、その多くは卒業論文の作成を経験していると思われる。しかしながら、当院の現状では、1～2 年目の看護師は仕事を覚えることで精いっぱいであり、看護研究に触れる機会は皆無かもしれない。3～5 年目の看護師が、役割として看護研究に取り組まなければならない状況になり、「何をどうしたら良いのか」「誰に相談したら良いのか」と困惑しながら取り組んでいる。また、部署で看護スタッフの指導にあたる看護師長や副看護師長は部下の指導をする際に、看護研究の専門知識がないことでスタッフに教えることへの不安を感じているという現状にある。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
院外	37	47	33	26	12
院内	20	20	19	18	18

表 1 看護研究発表演題数

Ⅲ 研究能力と研究指導の困難について

看護研究に取り組む看護師が困難に感じていることは「テーマの絞り込み」「文献検索」「研究計画書の作成」「データ分析」「研究論文のまとめ」である。

平成 29 年からは、このような問題解決のために看護系大学に講師を依頼し、看護研究の基礎的知識の講義と各部署へのアドバイスをしてもらう体制をとっている。

Ⅳ 院内での看護研究指導体制について

看護師の看護研究への指導は、看護管理者の支援だけでは不十分であり、看護研究専門家と協働する必要がある。そして、看護研究専門家には、臨床における看護研究の目的を理解してサポートしてもらうことが大切になる。

1～2 年目の看護師は、研究に入り込む余裕はないかもしれないが、研究を見学するなど、病棟で看護研究が行われていることを認識することが大切である。3～5 年目の看護師は、研究への嫌悪感を抱かず、忙しい現場でできるところから研究をやってみることが重要で、個々に過度の負担がかからないような支援が必要である。6 年目以上の看護師は、指導を受けながら、研究に積極的に取り組み、自分たちが行った研究が部署または院内の看護実践に反

映することを実感できることが目指すところである。そして、どのレベルの看護師も常に看護研究は自分たちの臨床に役立つものだという意識を持つことが大切であると考ええる。

Ⅴ おわりに

日常の看護業務の中での疑問や事実、気づきが研究テーマになりうることを理解できるように、これまで着目しなかった些細な出来事にも目を向けるような意識の醸成は、看護管理者の大切な役割である。

看護研究の取り組みを当院の看護部に根付かせていくためには、臨床看護研究であるがゆえ、臨床の事象を良く理解できる看護師長、副看護師長と研究専門家の協働により、タイムリーな相談が可能な指導体制が必要である。そして、看護研究は臨床に役立ち還元されるものだと実感できるように働きかけていく必要があると考えている。

本演題に関連して開示すべき利益相反状態はない。

参考文献

- 1) 井部俊子. 他編:看護管理学習テキスト看護サービスの質管理. 日本看護協会出版会. 2019